

子育てジャーナル



発行人 四ツ釜雅彦
 公益社団法人 全埼玉私立幼稚園連合会・幼児教育センター
 全埼玉私立幼稚園PTA連合会
 〒330-0063 さいたま市浦和区高砂4-13-21 私立学会館新館
 TEL 048(863)7811 FAX 048(863)7781
 http://www.youchien.ed.jp

No.103
 2024(令和6)年
 3.1

「生きる力」を育む教育

困難を乗り越える力



(公社)全埼玉私立幼稚園連合会
 会長 四ツ釜 雅彦

新年早々の一月一日、能登半島を大地震が襲い、家屋の倒壊、火災や津波により大勢の命が奪われました。犠牲になられた方々、被災された方々へ心よりお悔やみ、お見舞い申し上げます。

このたびの地震では、過酷な環境に置かれた子どもたちへの影響が心配されます。長引く避難所生活でストレスが溜まったり、地震の恐怖がフラッシュバックして眠れぬ夜を過ごしていたりするのはないでしょうか。

子どもは震災などの非常に怖い体験をすると、大人にくつついて離れなかつたり、大声を出したり、乱暴な行動を取るようになつたりすることがあります。

こうした行動は傷ついた心を回復させるための自然な行動で、無理にやめさせようとするのはなく、あたたかく見守ってあげるのが良いそうです。

また、災害以外でも子どもたちは日々の園生活の中で様々なストレスを感じていることがあります。例えば、遊んでいたおもちゃを取られてしまった、本当は友達とボール遊びをしたかったのに鬼ごっこになってしまったなど、自分の思うようにならない事がしばしばあります。

特に三歳児はおもちゃの貸し借りがうまくできない年齢であり、四歳児も自分の気持ち我慢して相手の意見に合わせることは難しい年齢です。五歳児なつてようやく自分の気持ちに折りなつてきますが、それでも我慢の限界を超えてしまうことがあります。

そのようなときには「頑張つて」と励ますのはよみましょう。園にいる間子どもなりに一杯頑張つていたのに、さらに頑張れと言われてもこれ以上どうすればいいのかと心が折れてしまいます。

子どもが園から帰つて来たとき何か不機嫌だったり、様子がいつもと違つたりするようなどきは、ギョッとハゲをして「どうしたの?」「幼稚園どうだった?」「そう、よく頑張つたね」と子どもの話を聞いて頑張りを認めてあげましょう。そうやって小さな挫折を一つ一つ乗り越えていくことで、やがてもっと大きな困難に立ち向かつていける大人になっていきます。

将来、大きな困難にぶつかったときでも、子どもが自らの命を大切に思えるよう、自分が大切にされている、愛されているという経験をたくさんさせてあげたいものです。

そのためには、子どもが安心して身も心も委ねられる親と、それをサポートする園が協力していくことが大切です。

「幼稚園」子育ての知恵⑥
 しのび 茂治

福島県の子どもたちが江戸時代から大切にしていた教えに「仕の掟」というものがあります。虚言(うそ)を言つてはいけない、弱いものをいじめてはいならないなど、7つの教えからなり、最後に「ならぬことはならぬものです」で結ばれています。なかには時代錯誤なものもあり、ならぬものはならぬという言い方は個人を尊重しない乱暴な物言いに聞こえるかもしれません。しかし自分本位で人の迷惑を考えない行いや、人のものを盗んでまで裕福になるうとする考えが蔓延してきている現代で、理屈を説明する前に悪いことは悪い、いけないことはいけないということも必要なのではないかと考える時があります。時代により決まりやルールは変わりますが、状況に応じ変化させることも大切です。その中で私たちが親として、何が本当に大切なのかを判断しこれからも考え続け、子どもに伝える必要があるのではないのでしょうか。「ならぬことはならぬものです」

脳育に大切な食の知恵

昨年、和食が日本の伝統的な食文化としてユネスコ無形文化遺産に登録され10年が過ぎました。農林水産省の食文化伝承について意識調査をしたところ、地域や家庭間で受け継ぎ伝承されている割合が約4割にとどまっていることがわかりました。

このままでは和食文化が薄らぎ、消え去ってしまうという危機感から国が動き出し、形のない幅広い文化を守るために登録したということです。食文化の歴史をたどると、食の転換期がありました。それは戦後にさかのぼりますが、当時は世の中の混乱で十分な食べ物がなく、栄養失調で痩せている国民がほとんどでした。この状況を改善しようと給食にスキムミルクやパンなどの配給が始まり、カロリー、たんぱく質を補うことで栄養改善されました。こうして従来の和食に上手に牛乳や乳製品、卵などのたんぱく質を取り入れたことで理想的な日本型の食生活として定着していききました。

日本型の食生活とはどのようなものでしょうか。それはご飯を主食としながら主菜、副菜に加え適度に牛乳、乳製品、卵や果物が加わったバランスの取れた食事のことです。そして米を中心にした食生活を送ることで、みそやだしを使った発酵伝統食や漁業、畜産業、農業を支え、食を通じての自然循環型が成り立ち、我が国の食料自給率につながるようになるのです。ところが2010年代になると社会環境の変化に伴い食の欧米化がより一層進み、パンの消費が米の消費よりも上回ってしまいます。家庭での調理する時間が短くなって青魚を食べる機会が減り、外食やファーストフードなどの機会が急速に増えたことで、エネルギー、脂肪過多による肥満の増加が懸念されています。肥満は各種の合併症を伴いますが、生活習慣病の原因にもなりやすく、特に小児肥満は大人の肥満に移行しやすいので注意が必要です。手軽な食事は品数が少ないう

えに柔らかい食事が多く早食い傾向にあるので、小児からそのような食習慣を続けると、噛めない・噛まない・飲み込めないという噛むことと唾液の分泌に悪影響を及ぼします。よく噛むということは、あごを動かすことで五感を通じて脳に刺激が伝わり活性化し、集中力や記憶力の向上、リラククス効果、ストレス軽減につながります。さらに食べ物を口にしたとき、口内で分泌される消化液である唾液(よだれ)はご飯のどんぶんをブドウ糖に分解する消化酵素を含んでおり、ご飯をよく噛んで味わうと甘味が感じられるのはこの働きによるものです。噛めない・かたい食べ物を食べる機会が減っている。噛まない・柔らかい食べ物ばかり摂っている。飲み込めない・噛む回数が減ると唾液の分泌量が減るという悪循環が生じてしまわないように時には和食を取り入れ時間をかけて食事を味わいたいものです。

脳に働く五感とはどういうものでしょうか。五感とは視覚・聴覚・嗅覚・触覚・そして味覚のことです。料理をするということは、この五感をすべて使う最高の食育です。料理をする調理音、香り、食材の感覚、食材の色彩、味わいという体中に刺激を与えることは、脳だけではなく、精神的な安定、愛情、感受性、口内の味蕾センサーの活性化などあらゆることが働き出し、人間の本能かつ人格形成においても将来にむけた礎となるのです。五感を働かせる一番の食材はだしでしょう。だしの香り、旨味は体内の消化液を出すスイッチが入るので、食べ物消化、吸収しやすくし、臓器の負担を軽減してくれます。

変わりゆく食の中で、約1000年変わらない行事が現代に残してくれた行事があります。

これが年中行事である五節句です。五節句は人間の生き方には節目があり、一日、一年間にも節目があります。私たちが朝・昼・晩にも食事によつて区切っているようにその節目を教え伝えるのは「食」です。五節句は健康を維持するため考え出された病氣予防の日であり、しきたりを通して教え伝えてくれました。五節句とは元旦(1/1)・桃の節句(3/3)・端午の節句(5/5)・七夕



幼稚園と子どもと親

「仕事が自分の子育てに役に立っていないね」と保育の世界に携わると周囲からよく言われます。勿論、保育の仕事をしている中で自分の子育てのヒントになることも多々ありました。しかし、仕事としてたくさん子どもを一定時間保育をすることが、私生活で自分が親となり子どもと長い年

月向き合うことは全く別だと感じています。独身の時には気付かなかったことや気付けなかったこと。今までに感じるものがなかった合つことはこんなにも大変で自分よりも大切な存在ができるものかと痛感しました。だからこそ我が子の為

ならなんでもしてあげようと思つたでしょう。自分のお腹にいる時は日々の食事に気を付けながら過ごし、生まれたら子どもの成長など心配することも多かったはず。そして幼稚園に入ると毎朝の身支度や送迎、お友達ができるのだろうか、楽しく園で遊んでいるだろうかの心配。小学校からは学習面も気にかけてあげ、中学高校と大きくなってまだまだ子育ては続くわけです。中学高校となれば我

我が子が先日成人式を迎え、今思つことは子育ては難しく大変、でも楽しい。それは保育の仕事も同じです。子どもたちを親目線と保育目線、そして園全体としての大きくあたたかく育てていく。3つのうちどれか一つでも欠けることなくぬけ出ることがない様にバ



ランスを取り互いの意見や考えを聞きながら大切なお子さんを多くの人の目で見守り導いていく。こうして長い長い子育てを「園」「親」で「子ども」を支えていく。この様な気持ちを持ちこの先も保育に携わろうと思つてます。

長い子育てを共に支え合う

認定こども園ふたば 峰田 理子

根本 悦子 先生



1978年クッキングスクールネモト創立。醤油醸造元で生まれ育った経験により、日本の食文化の歴史や伝統、食べ物と身体との関係をテーマに研究。食育活動、生活習慣病対策講座“食と文化のサロン”、講演活動を県内外にて実施している。

主な経歴

東日本料理学校協会理事、茨城県食文化協会会長
臨床栄養学士
食育インストラクター1級、企業エキスパート
大学講師、病院臨床栄養学講師

伝統料理研究・開発

1998年NHK大河ドラマ「徳川慶喜」放映に伴い、徳川家ゆかりの料理の再現をテーマに「い賓閣御膳」を作成、発表。NHK、フジテレビ等で「い賓閣御膳」作成の背景や料理と健康の関連などを紹介。
2011年NHKおはよう日本 米粉を使った備蓄料理放送

講演

専門分野は食育、臨床栄養学、食文学、調理技術。特に食生活と健康(身体との関係)について、県内外の大学、各学校、自治体、保健所、病院、企業などで講演活動、健康指導活動を実施。

メディア・著書

芽ばえ社『今伝えたい食ものがたり』
文芸社『食のとっても大切なお話』
茨城新聞 毎月第2火曜日 いばらき食文化連載中
ひたちなか市食魚普及活動実行委員会お魚動画配信中心

の節句(7/7)・重陽の節句(9/9)のことで季節の草花や食材を取り入れて五穀豊穡を願う家族が皆健康で過ごせるよう願いを込めて続けた行事です。現代においても姿形は変わっても、食事マナーや食に関わる生産者に対する感謝と尊敬の念を家族と共に語り合える時間が少しでも共有していただけることを願います。それは週に1度でもかまいません。長年の経験

から生まれた和食の知恵を過去のものにせず、伝え続けることで本当の意味での世界に誇る私たちの和食文化になると信じています。



卒園おめでとう

「悲しいけれどおめでとう」

鷺宮幼稚園

横原理絵

本当の卒園

あさか台幼稚園

小東裕子

積み重ねに楽しい毎日

むさし幼稚園

横山めぐみ

大好きなあなたへ

認定こども園 本庄幼稚園

塩澤美保子

「お母さん、卒園はおめでとじゃないよ。先生やみんなに会えなくなるんだから、悲しいんだよ。」卒園を控えた上の子の言葉でした。本当に充実した園生活だったのだと嬉しく感じたのを今でも覚えています。この度、下の子の卒園を迎え、親としても卒園です。とても感慨深く感じるとともに、親の私も園との別れが寂しくてたまりません。他県から全く知り合いない土地に生まれましたが、園の先生方、お友達、パパ、ママ友達とのかけがえのない出会いがありました。不安を感じる隙すらないほどに手厚く寄り添い、一緒に子育てしていただいた先生方には感謝しかありません。さあ、新たな舞台へ飛び立つとき「悲しいけれど、卒園「おめでとう！」

我が家は長女次女と6年間、お世話になりました。今年で本当の卒園となり、寂しい気持ちでいっぱいです。次女が入園した時はコロナ禍でしたが、幼稚園時代は二度と来ないという園長の先生の考えのもと、長女が楽しんできた、日本の伝統を大切に数々の季節行事をほとんど実施していただきました。安全な実施にご苦労なされた先生方から感謝しています。日々の保育においても、帰る際に一人一人目を合わせて、制服を正しながら今日の出来事を一緒に話す時間を取ってくださるなど、心に寄り添う保育をしていただき、本当に幸せでした。幼稚園での沢山の楽しい思い出を胸に、小学校でも楽しんでね。卒園おめでとう！

「今日も楽しかった！」園から帰ってくると毎日のように報告してくれる娘。先生とお友達が大好きな娘も、いよいよ卒園を迎えることとなりました。いつも娘の頑張りを励まし、共に成長を喜んでくれた先生方。先生方のおかげで娘は安心して新しいことに挑戦し、運動会や発表会など緊張しがちな行事でさえ、「楽しみー待ち遠しい」と前向きに取り組むことができました。そして娘と一緒に園生活を過ごしてきたも組のお友達。一緒にたくさん遊んで励まし合ったみんながいてくれたからこそ楽しい思い出いっぱいこの三年間になりました。もも組のみんなと娘と一緒に元気に卒園できること、心から嬉しく思います。卒園おめでとう！

慣れなかった制服も、一人で着られるようになったね。毎日、園での出来事をお話ししてくれて楽しいよ。お話し上手過ぎて、つい本気で口げんかしてごめんね。年長の運動会、出る種目の多さに心配してたけれど、真剣に頑張る姿に「大きくなったな。」って、感動して涙が止まらなかったよ。幼稚園が楽しかったから、卒園は寂しいね。でも、笑って泣いて成長した三年間は、あなたに元氣と勇気をくれた宝物だよ、その宝物を胸に小学校生活を楽しむことが、大好きな幼稚園の先生やみんなへの「ありがとう」になると思うんだ。お母さんも、大好きなあなたが隣で笑ってくれる幸せをかみしめながら、これからもずっと応援してるよ。卒園おめでとう。

子供の非認知能力を育む

「子育ての目安「3つのめばえ」の取組から」

子育ての目安「3つのめばえ」	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 健康で安全な生活をする 自分のことは自分でする 物を大切に使う
他者との関係	<ul style="list-style-type: none"> 人と関わる力を身に付ける 言葉で伝え合う きまりや約束を守る
興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心や探究心をもっているものに関わる 文字や数値などの感覚を豊かにする 自分の思いを表現する

県教育委員会では、生活、他者との関係、興味・関心の3つの視点から、幼児期に身に付けてほしいことを「子育ての目安「3つのめばえ」としてまとめ、推進しています。近頃、「非認知能力」が注目されています。皆さんもどこかで目にしたか、耳にしたかあるのではないのでしょうか。「非認知能力」とは、読み書きや計算などと違って、測ることができない力（自尊心や自己肯定感、自立心、自制心、自信、協調性、共感性、思いやり、社交性、善悪の判断など）のことを言います。これらは、子供を支える「心の土台」というものですから、幼児期から育むことがとても大事です。これらを幼児期に身に付けるかどうか、将来安定した生活を送ることが出来る重要な要因となる、という海外の研究結果も公表されています。

「3つのめばえ」として掲げているのは、どれもご家庭でお子さんに関わる際に意識して欲しい内容ですが、意識して関わるることによって、子供の「非認知能力」を育むことができます。例えば、「自分のことは自分でする」に関して、できない部分は手を貸して、できるところはほめて励ますことにより自立心などが、「人と関わる力を身に付ける」に関して、子供の目を見て話を聞くことにより自尊心や自己肯定感などがめばえます。また、「非認知能力」は子供が自ら興味をもったものに夢中になって遊ぶ中で育まれます。「健康で安全な生活をする」に関しては、親子で一緒に戸外で遊ぶことをおすすめしています。身近な公園や道端にもわくわくする「遊びの種」がたくさん散らばっています。子供の発見と一緒に喜んでいながら、遊びを温かく見守ることが大切です。これらのように、何か特別なことをしたり、特別な場所に行ったりしなくても、普段の生活の中で少しずつ意識して関わるのが、お子さんの「非認知能力」を育むことにつながります。

(埼玉県教育委員会 子育ての目安「3つのめばえ」より)



園生活を振り返って

子ども達の心に寄り添って

一の割幼稚園

清野路子

幼稚園

坂戸カオル幼稚園

増永鮎美

かけがえのない時間

東石槻幼稚園

内尾優香

「あひかり」

認定こども園 立正幼稚園

佐藤久美子

この春で末っ子が卒園。その間様々な先生方に出会えた。

両手を大きく広げ満面の笑みで「おはよう」と抱き上げてくれた先生。すぐにお腹が痛くなる息子に、いつも目線を合わせて「大丈夫？」とお腹を擦ってくれた先生。かけっこでどうしても一番になりたい息子に丁寧な戦術を教えてくれた先生。行事の前に子ども達に手作りのお守りをくれた先生。子どもの成功に大声をあげて一緒に喜んでくれた先生。そして、目の前の高い壁に挑戦する機会を与えてくれ、子ども達を信じて乗り越える勇気を持たせてくれた先生方。

当たり前のように、小学校に行く前には幼稚園に行くものだと考えていました。幼稚園に行かせる意味は何であろうかと考えてみると、家庭から離れた場所で家族ではない大人と、また同じくらいの歳の子と同じ生活をしていた時にその子はどのように行動していくのか、その過程で学び知恵をつけ、集団生活での自分の立場を考えていく空間であると思います。我が子は癩癩持ちでわがままで主張が強く、先生方も周りのお友達も非常にとっつきにくい子どもだったと思います。ただ、この坂戸カオル幼稚園での他にはない手厚い保育、お友達の声掛けにより、成長したことを彼自身が実感していると話していました。

子どもたちにとって、幼稚園で過ごしてきた三年間はかけがえのない時間だったと思います。コロナ禍で入園し、縮小される行事やマスクの着用など、一部制限のある園生活でした。先生方は制限のある中でも四季折々に合わせた行事を運営して下さり、多くの経験を重ねる事ができました。その中でもお遊戯会は特別な思い出となりました。当日の感動、子どもたちの成長した姿に驚いた事は昨日のこのように思い出します。また、年長児のサッカー大会で初めて優勝できた事は、子どもたちにとって大きな自信となり、かけがえのないものとなりました。

子どもたちを温かく見守って下さった先生方、一緒に過ごしてきたお友達や保護者の皆様に心より御礼申し上げます。

園生活十三年目最後の年長組一学期のこと。「もう一度この子ども達を持ってよかった。」とけなげな担任の先生の涙が今も心に残っています。

四人の我が子たちは友達と原っぱを駆け回り、運動場でボールを追いかけ、森の中で大きな虫を捕まえ、四季折々の匂いを体一杯に吸い込み、自然に恵まれた園だからこそ出来る遊びをとことん楽しみました。

また、親として、縁の下の力持ちになつていたつもりが、いつの間にか園の存在に支えられている事に気付きました。先生とたわいもない話をして、大きく息を吐ける場所。そうだよねと頷いてくれる仲間がいる場所。この園に出会えてとても幸せでした。

子育て電話相談 ひとりで悩まないで、まず相談を

子どものこと、家庭のこと、夫婦のこと、
ご自身のことなど

ご相談についての秘密は厳守します

匿名で結構です

無料です

幼児教育センター(相談専用)

048-863-7811

毎週月～金曜日 午前10時から午後4時 (お盆休み、年末年始を除く)



記念講演 「スポーツでもっと豊かな国に」 ～子どもたちのためにスポーツは何ができるのか～

講師：公益財団法人日本バドミントン協会会長
Jリーグ名誉会員(Jリーグ第五代チェアマン) 村井 満氏

第37回全埼玉私立幼稚園PTA振興大会・第30回子育てフォーラム親学推進大会が、11月27日にさいたま市の埼玉会館で開催されました。当日は1,000名を超える満場の参加者のもと盛大に行われました。

子育てフォーラム親学推進大会では記念講演として村井 満氏より「スポーツでもっと豊かな国に」～子どもたちのためにスポーツは何ができるのか～と題しお話をいただきました。ここでは、要旨のみご紹介いたします。



「体育」は「スポーツ」とは違う。スポーツの語源は、ラテン語の「Deportare」。

「港を少し離れる＝余暇を楽しむ」という遊びの概念である。それから考えると、Eスポーツもスポーツである。

元浦和レッズの福田正博と、子どものスポーツイベントで会った。11人しか子どものいないところで、ボールを投げ上げ、「だるまさんがころんだ」や「てつなぎ鬼」を楽しんでいた。このように、スポーツは、しごいたり、鍛えたりではなく、楽しいものである。今日は5つばかり話をプレゼントしたい。

1. サッカーの成功者に共通すること

成功するために必要なことを探るため、元日本代表選手の本田圭佑、岡崎慎司、長友佑都について徹底的にリサーチしてみた。3人に共通していることは、次の3つ。

①「**傾聴力**」素直に相手の話を聴くこと。②「**主張力**」自分の考えを主張すること。③「**へこたれない気持ち**」サッカーは、「足を使う理不尽なスポーツ」。そこで心折れても、へこたれないこと。

2. 勝利の条件

勝利をつかむためには、「**関係性の質を上げる**」こと。森保一日本代表監督は、ボールボーイにもお礼を言う。挨拶もみんなにする。徹底して、関係性の質を上げると、「**思考の質**」が上がり、「**行動の質**」が上がる。すると「**結果の質**」が上がる。これがまた、関係性へと循環していく。

3. になりたい自分になるために

元日本代表の中村憲剛は、プロのなるまで、目立った選手ではなかった。川崎フロンターレを優勝に導くまでの選手になったのは、次の5つの「**法則**」があった。

①「**好奇心**」サッカーに関係する雑誌、ビデオなど、好きなことには何でも注目する。②「**持続性**」そして長い期間好奇心を持ち続ける。③「**楽観性**」今はできないことも、いつかはできるようになると思えること。④「**柔軟性**」プロのなれなくてもサッカーには関わられる(教師だって、広告代理店だって)という気持ち。⑤「**冒険心**」思い切って実行、チェアマンにも意見を言う。

4. スポーツの地域社会

発達障害の子ども達に夢と生きがいを感じてもらうために、Jリーグを使うことを考えた。ノウハウを持つANAやJTBにも協力を求めた。「また、サッカーをやってみたい」と思われるような内容を工夫したり、サッカースタジアムでの観戦の際に音や光をコントロールできる部屋を設けたりもした。埼玉には、地域のチームがある。これは幸せなこと。

5. 健康の土台

年をとっても、健康で自分の足で歩けるように、歩くことを研究した。コロナ禍で、歩行のバランスが崩れた。スポーツを通じて、遊べる環境を整え、歩行の計画をとると、けがが減ってきた。80歳、90歳になっても元気な人生を送るためにスポーツが持つ価値についてご理解いただきたい。

村井 満氏 略歴

昭和34年埼玉県川越市生まれ。埼玉県立浦和高等学校、早稲田大学法学部を経て(株)日本リクルートセンター(現 リクルートホールディングス)入社。人事担当役員、(株)リクルートエージェンツ代表取締役社長、リクルート・グローバル・ファミリー香港法人社長・会長を経て民間企業からの初の起用となる公益社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)第5代チェアマンに就任。4期8年にわたる任期を終え、現在名誉会員。日本オリンピック協会(JOC)理事。日本バドミントン協会会長。



自己肯定感の育みへ

やごうこども園 飯塚 路子

満三歳児クラスでは、「できた」の喜びで満面の笑みを浮かべる子どもたちを毎日目にします。入園当初は不安そうな表情で登園してきます。ところが、あつという間に自信に満ちた表情に変わり、元気に園での生活を送るようになります。

最初のうちは、援助を必要とする場面も多く見られる子どもたち。このような状況の中、子どもたちの意欲を尊重し、小さなことでもできた時には先生たちも一緒に喜び、ほめる言葉かけを続けることで、日々できることがどんどん増えていきます。子どもたちの成長力に驚かされてばかりです。また、こんなに小さな子どもでも、子ども同士で励まし合い、ほめ合う光景を見かけた時は、とても感動しました。子どもたちと

喜びを共にし、「できた」のこの瞬間に立ち会えることをとても嬉しく思います。子どもたちは、みな多様な個性をもっています。子どもたちそれぞれ個性を大切にしながら、個々の良さをより伸ばしていけるよう、個に応じたきめ細やかな支援に努めさらに、どんなに小さなことでも、子どもたちの「できた」を見守り、共に喜び、ほめる言葉かけを今後も心掛けていきたいと思えます。子どもたちのたくさんの「できた」の経験と自信が、これからの成長の中で、自己肯定感を高めることにつながっていきつづけていきます。



笑顔の力

認定こども園エンゼル幼稚園 福岡 貴子

毎朝、園の門を開けると子どもたちのにぎやかな声、この場所だけ他とは違う空気を感ずると同時に私に大切な時間が始まります。

私は現在の歳児担任をしています。入園当初はハイハイや高はいをしていた子どもが、つかまり立ち、伝い歩きを経て、自分で立ち歩くようになりました。このような瞬間に立ち会えることを嬉しく思い、日々成長する子どもたちの姿を見るたびに様々な感動を味わっています。そして、何よりも子どもたちが笑顔を見せてくれた時に感じる喜びは、保育をしていく上で大きな力となります。その笑顔のためにも平素から安全な環境と、怪我や誤飲がないように子どもたちから目を離さないことを心がけています。

好奇心旺盛な子どもたちは、純粹

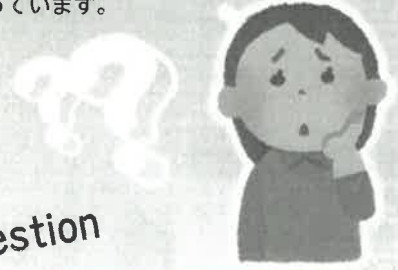
な心を持っていきます。何かを達成したり面白いことに出会えたりすると、屈託のない最高の笑顔を見せてくれます。子どもたちと笑顔で共有できた時は、仕事へのやりがいや一番感じる瞬間です。子どもたちの笑顔は、特別なもので、見ているだけで幸せな気持ちになれます。

今年度園のテーマ「ジャンプ」を取り入れ朝、お帰りの時に行っている「エンゼルージャンプ」(小さくしゃがんで大きくジャンプ)の時は、みんなあふれんばかりの笑顔です。子どもたちと一緒に成長を喜び合いつながり笑顔に囲まれている日々は私にとって最高の時間です。

余談ですが、手洗いの時に「泡、泡しようね」と言う口口に手を当て「あわわわ」が始まる。(笑)♡

年少の男の子です。内気な性格で入園当初は泣いて登園することも多く、幼稚園ではみんなと一緒に活動に参加できないこともありました。それでも次第に園生活に馴染み、友達もできて自ら集団遊びに参加することもできるようになりました。園の先生によるお絵描きの活動だけではありませんが、自分から描こうとしないそうです。

持ち帰った絵を見ると、細い線がひよろひよろとしているだけです。同年齢のお友達は、形あるものを描いています。このまま放っておくべきか、それとも絵画教室などへ通わせるべきなのか判断に迷っています。



Question

子育て相談 Q&A

Answer

内気な性格とありますが、お子さんなりに様々なことを頑張ってきたのでしょう。楽しい園生活を過ごせるようになったのは嬉しいことですね。ただ、絵を描くことに抵抗があるようですが、絵画に関しては個人差の大きいものですし、特に幼児の場合は技術を学ぶことよりも、自分らしさを表現できるようになってほしいものです。持ち帰った絵は『細いひよろひよろの線』とあるので描くことに苦手意識があるのかもしれません。お子さんが描いた絵はとにかく褒めましょう。3歳くらいですと大人から見て何を描いているのか理解ができないこともよくあることです。例えば『赤でぐるぐる』だったら「りんごみたいでおいしそうね」「長い線」なら「へびさんかな」など、何でも良いのです。壁に飾ってみるのもいいかもしれません。どんな絵でも否定せずに受け入れて認めてあげましょう。また、日常生活の中でも、いろいろな場面で褒めることも大切です。着替えを一人で頑張ったなら、その頑張りを褒めましょう。家族のためにお手伝いができたなら、褒めると同時に「ありがとう。とても助かったよ」と感謝を伝えましょう。他人のために役に立っているという実感は自信に繋がります。年齢を重ねるごとに保護されるだけの存在ではなく、家族の一員として立派に存在している自覚が芽生えてくるのです。自信がついてくると、自然とお子さんの絵に変化がでてくると思います。あせらず本人なりの成長を見守りましょう。

(三浦 和)

おむつはずれは 焦らず気長に



ずれはみんな取れる時が必ず来ます。

トイレに慣れるまで多少時間はかかりますが気長に付き合ってください。おむつが取れるのが、早いからいいとか遅いから悪いとかはありません。

入園・進級を間近に控えたこれからの時期、排泄についての相談が多くなります。「まだおむつが取れないのですが」「おむつからパンツに強制的に変えたら、子どもに大泣きされてしまった」といった相談にママたちの焦る気持ち

個人差はありますが、い

焦らず気長に

電話相談件数(令和5.4~令和6.1)

内容別件数 (のべ件数)

園・学校に行きたがらない	7
気になる行動(赤ちゃん返り・性器をさわるなど)	3
自閉症・多動・学習障害など	8
食事に関して	0
友だちに関して	9
幼稚園生活(いじめる・いじめられる・なじめない)	5
言葉(遅い・幼児音・暴言)	3
言うことを聞かない・カンシャクなど	2
排泄について	6
その他	360
合計	403

「その他」の内訳 (のべ件数)

夫婦・家庭に関すること	124
保護者自身に関すること	126
幼稚園に関すること	13
親子の関わり方	130
子どもの健康に関すること	37
その他(親同士・習い事・相談機関等)	85
その他の内訳の合計	515

※複数項目にわたる相談のため、その他とその他の内訳の合計は合致しません。

◆リラックフスさせる工夫を

園の手洗い場やトイレは子供用に作られていて抵抗なく使えますが、家庭用トイレは、大人用のため、子供が使うには、子供用の補助便座を付けたり、踏み台を置くなど使いやすくする工夫が必要。好きなシールを貼ってみたり、かわいい絵を飾るなど、お子さんが安心してできる雰囲気づくりも良いと思います。

◆出ない時はいったん

切り上げる
トイレに誘ってようやく座ることができても、なかなか出ない時もあります。そんな時は、いつまでも座らせるのではなく、「上手に座れたね」とほめて、いったん切り上げましょう。食後や寝る前など決まった時にトイレに行く習慣を作って、おしっこうんちはトイレですることを教えてあげてください。あとはタイミングさえ合えば、必ずうまくいきます。もちろん、「お

まる」を使うのもいいです。初めはおしっこができればオーケー。おしっこができて、うんちは、まだおむつの中という子はけっこういます。おむつをしている安心感もあるのでしよう。うまくいく回数が増えても、ちょっとした環境の変化でもらしてしまいうこともあります。一進一退、時間はかかります。焦らず、叱らず、気長に付き合ってください。

そして、できた時は思いっきりほめてあげてください。子育てが辛くなったら、ひとりで悩まないでどんなことでも相談してください。匿名で結構です。皆さんからの電話をお待ちしています。

編集後記

元日16時10分に能登半島でマグニチュード7を超える大地震が発生しました。この地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。過日、全日本私立幼稚園連合会より令和6年能登半島地震に対する義援金活動への協力依頼があり、全埼玉私幼連より会員の皆様にご協力をお願いをさせていただきました。皆様から温かいご支援をいただき感謝申し上げます。

子育て電話相談
毎週月～金曜日
午前10時～午後4時
☎048-863-7811
幼児教育センター

子育てジャーナルの
バックナンバーはこちらから
全埼玉私立幼稚園連合会
ホームページ
(<http://www.youchien.ed.jp>)
子育て支援 → 子育てジャーナル
を選択